

## 私の履歴書

釜本邦茂

② 年から42年まで兵役でロシア、モンゴルとの国境に近い中国の海拉爾に赴き、陸軍中

リーマンになつた。折に触れ  
「弁護士夫人になるはずやつ  
たのにダマされたわ」とこぼ  
していた母は2003年に、

り返し書かれてあつた。  
要は自分の流派を立てるくらいのつもりで己に厳しく技を磨けということやな。そう解した私は電車の中ではつま

現役時代、私の身長は公称179cmだった。本当は181cmあったが、体の大きなやつは鈍くさいとみなす風潮が

時代、私の身長は公称  
だった。本当は18  
たが、体の大きなや  
さいとみなす風潮が  
あつたので過少申告  
を繰り返すうちに、  
数字の小さい方が定  
着したのだった。

76歳くらいあつたから當時としては大柄だった。12年生まれの母も160センチ近くあつた。

佐子を抱えて京都に戻り、父は太秦にできた三菱重工業京都機器製作所の青年学校教官に職を得た。44年4月15日、私も太秦で生を受けた。五人兄弟の四番目。下に妹の利恵

親元を離れ、早大に進学すると剣道3段の父親から毎週のように手紙が届いた。高くな積み上がった手紙の束を横目

先立ち、新宿の歌舞伎町を歩けば行き交う人との間合いを測りながら、かわす練習に努めた。部屋に入ると、机や椅

探究心と俊足 親譲り

電車・人混み…どこでも練習

## よつ正 恵まれた体

惠 県出身の両親から受け継いだものだ。父の正作は樺原市の大和三山の一つ、耳成山の麓近くで、母よしこは桜井市の三輪山の近くで生まれた。釜本家と母の実家の森家は親戚同士。森家は地主だったが、農業を嫌つた母は近郷で暮らすいとこの父が弁護士志望だと知り、持参金を携えて嫁いだという。

本人女性初の五輪メダリスト（28年アムステルダム五輪800m2位）、人見絹枝さんと走ったことがあると話していた。

女学校には着物で通いながら、両足をさらして陸上をするくらいだから相当におてんばな娘だったようだ。

34年に父は京都で警察官になつた。関西大学で勉強を続けたが弁護士の夢は断念。38

子がいる。「邦茂」という命名には日本の邦を茂らせる人になれという当時の父の願いが込められている。敗色濃い戦争の先行きを父なりに見通していたのだろうか。

母は母で「邦茂はお産は控えろといわれる女の厄年（33歳）で産んだ子。そやから人より秀でた子ができるんや」と話していたそうだ。

戦後、父は三菱造船でサラ



晩年の両親

に「一番下の手紙と一番上の新しい手紙を読んでみ。時候の挨拶以外、内容は一緒や」と仲間を笑わせたものだ。

れば十分だった。  
小さい頃、ケンカして泣いて帰ると母は「やり返してこい」と怒る人だった。足の速さと負けん気は母親譲りなのだろう。温厚な父からは、いろんな工夫をしながら技を突き詰める探究心をもらつたと思つてゐる。

れば十分だった。  
小さい頃、ケンカして泣いて帰ると母は「やり返してこい」と怒る人だった。足の速さと負けん気は母親譲りなのだろう。温厚な父からは、いろんな工夫をしながら技を突き詰める探究心をもらつたと思つてゐる。

## 丁と下宿の畳1 畳分の広さがあ

や背筋を鍛えるには、パンツ一

知するのが習慣になつた。腹筋

子や置物などの配置を瞬時に認

かわす練習に努  
に入ると、机や椅

の歌舞伎町を歩  
う人との間合いを

(日本サッカー協会顧問)